

令和 7 年 4 月 3 日

宗像市長 あて

(申請者)

団体名: special SIBLINGS

代表者: 藤田直美

令和7年度 宗像市人づくりでまちづくり事業補助金交付申請書
【めぶきコース】宗像市人づくりでまちづくり事業補助金交付要綱第6条第1項の規定に基づき、
下記のとおり申請します。

1. 申請する取り組み

補助金で やりたいこと (取り組みの内容)	具体的な取り組み内容、補助金の活用方法を記載してください。(別紙参照可) 乳幼児健診の場に気軽に立ち寄れる無料のカフェスペースを提供し、保護者が安心して子育てについて相談できる環境を整えたい。特に障害児の親が孤立しないようピアサポートを行い、早期療育や支援につなげることを目指す ①気軽に立ち寄れるカフェスペースの運営。(乳幼児健診にママが安心できる場を提供) ②先輩ママによるピアサポート(育児の悩み相談や、支援情報の提供(押しつけなし)) ③子供が安心できるあそびスペース(健診の、待ち時間にリラックスできる環境を整備) ④支援機関とのネットワーク構築(福祉・教育機関と連携し、必要な支援につなげる) ⑤行政との協体制の確立(データを活用しながら、持続可能な支援を検討) ⑥事業の評価とデータ管理(参加者数や相談件数を分析し、支援の質を向上) ⑦Canvaを活用した広報・情報発信(継続的な支援の定着と広報・データ管理・評価。ママ達の情報収集のツールがInstagram主流であり、日常の中での繋がりが親しみやすさに繋がるため)	
やりたい理由 (取り組みの目的・目指す成果)	上記の取り組みが団体の活性化につながると思う理由(団体の課題感、今後実現したいこと等) 【①孤独な障がい児ママに寄り添いたい】障害児を育てる親は、周囲に理解されにくい悩みを抱え、孤独を感じることが多い。私達自身もその一人として同じ思いをしているママ達に『ひとりじゃない』と感じてもらえる場をつくりたい。 【②支援のハードルを下げたい】当事者の会や支援に繋がること自体にハードルを感じる人が多い。情報を受け取ること、誰かに相談することへの心理的・物理的なハードルを下げ、気軽に頼れる仕組みをつくりたい。 【③リアルな繋がりが必要だから】SNSでの情報収集が主流の時代だが、障がい児子育てには、実際に顔を合わせて相談できる場や、地域ならではの情報交換が必要。リアルな場だからこそ生まれる安心感や支え合いを大切にしたい。 【④『待つ支援』ではなく『迎えに行く支援』をしたい】困っている人が自ら助けを求めるのは難しいことが多い。だからこそ、こちらから声をかけ、繋がりを作る支援が必要だと考える。『助けを求める勇気がなくても支援が届く仕組み』をつくりたい。 【⑤『福祉のまち宗像市』を目指したい】2026年に宗像市に特別支援学校が開校する。今こそ、行政と当事者が連携し、障がい児を育てる家庭にとって優しいまちを作るチャンス。『誰もが安心して暮らせる福祉のまち』にしていきたい。	
過去に同コースの交付を受けた年度	なし	みのりコースと併用しない

2. 補助金申請額及び算出基礎

補助申請額	100,000	円	算出基礎	別紙収支予算書のとおり
-------	---------	---	------	-------------

令和7年度 宗像市人づくりでまちづくり事業補助金収支予算書

【めぶきコース】

(単位:円)

収入		
費目	予算額	摘 要
市補助金	100,000 円	人づくりでまちづくり事業補助金
その他収入	円	
合計	(a) 100,000 円	

支出			
費目	経費の種類	積算内訳	予算額
需用費	消耗品費	文房具・衛生用品・掃除用品	10,000 円
設備費	備品購入費	ポスターフレーム B2×2 両面 ￥26000	26,000 円
設備費	備品購入費	クーラーボックス ￥11000 保冷剤（夏場の飲料保管）	11,000 円
使用料	使用料	Canva使用料	12,000 円
需用費	印刷費	チラシ2種（2000部 ￥5500 / 1000部 ￥3500）	9,000 円
需用費	印刷費	ポスター2種（B2 1枚 ￥4500 ×2）	9,000 円
委託料	委託料	のぼり旗 1枚	11,000 円
委託料	委託料	ユニフォーム 1種類 4枚	12,000 円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
			円
(b)			100,000 円

項目	計算式	記号	金額	補助金申請額
補助額	(b) × 100% 千円未満切り捨て	(c)	100,000 円	100,000 円
補助限度額	-	(d)	100,000 円	